

「最善の説明への推論」と实在論

杉野修三 (Shuzo SUGINO)

北海道大学大学院理学院 修士課程 2年

「最善の説明への推論（以後 IBE と略記する。）」は实在論擁護の手段としてしばしば運用されている。その一例として、本発表の前半で紹介するリチャード・ボイドによる IBE の解釈が挙げられる。しかしながら、その解釈に対する反論がファン・フラッセンによって構成的経験論の立場から展開された。

本発表の中心的人物であるピーター・リプトンは、实在論寄りな IBE の解釈を論じる一方、従来の「实在論と非实在論」という従来の枠組みに必ずしも固執しない IBE の捉え方を提案した。この点に発表の重きを置いて考察する。これを踏まえ、本発表の後半では Lipton (2004) *Inference to the Best Explanation* (2nd ed.) を足懸かりとして、「实在論と非实在論」という今までの構図とは別の枠組みで IBE を捉え直す可能性とその限界について、展望を交えつつ論じていく予定である。

以上